

が低い者は四年制大学を志望する率が高くなる。女子についても、特に「学力」がランク面でも校内成績面でも中程度の場合、「対人能力」が低い生徒の方が短大や四年制大学への進学を志望する率が高く、「対人能力」が高い生徒は就職や専門学校・各種学校を進路として選択する者が多くなる。総じて「対人能力」の低い高校生が進学に向かうという傾向が確認される。

表4 学力・「対人能力」別の進路志望（性別、普通科のみ） (%)

			就職	専各	短大	四大	フリーター等
男子	学力低	対人低(123)	45.5	38.2 ∨	2.4	8.9	4.9 ∧
		対人高(45)	44.4	28.9	6.7	6.7	13.3
	学力中	対人低(160)	13.1	20.6	3.8	61.9 ∨	0.6
		対人高(85)	21.2 ∧	21.2	5.9	49.4	2.4
	学力高	対人低(143)	4.2	14.0	2.1	78.3	1.4
		対人高(68)	5.9	10.3	4.4	79.4	0.0
女子	学力低	対人低(68)	45.6	29.4	5.9	4.4	14.7
		対人高(84)	44.0	33.3	7.1	3.6	11.9
	学力中	対人低(131)	8.4 ∧	28.2 ∧	25.2 ∨	35.9 ∨	2.3
		対人高(158)	13.9	36.1	19.6	29.1	1.3
	学力高	対人低(135)	2.2	20.7	16.3 ∨	57.0	3.7
		対人高(130)	3.8	23.8	8.5	59.2	4.6

注) ( ) 内はN。

ここでさらに、「対人能力」だけでなく「進路不安」という要素をも含めて進路志望の規定構造を検討するため、四年制大学進学志望というダミー変数を従属変数とし、説明変数に「進路不安」をも加えたモデルでロジスティック回帰分析を行った。その結果が表5である。

表5 「四年制大学進学志望」の規定要因（ロジスティック回帰分析、数値はB)

	男子	女子
「対人能力」	-.003	-.013
「進路不安」	.186***	.178***
高校ランク	.052***	.054***
高校内成績	.441***	.515***
専門高校ダミー	-.665***	-1.521***
家族コミュニケーション	-.002	.049**
-2 対数尤度	2338.904	2700.581
Cox & Snell R二乗	.352	.335
Nagelkerke R二乗	.470	.457

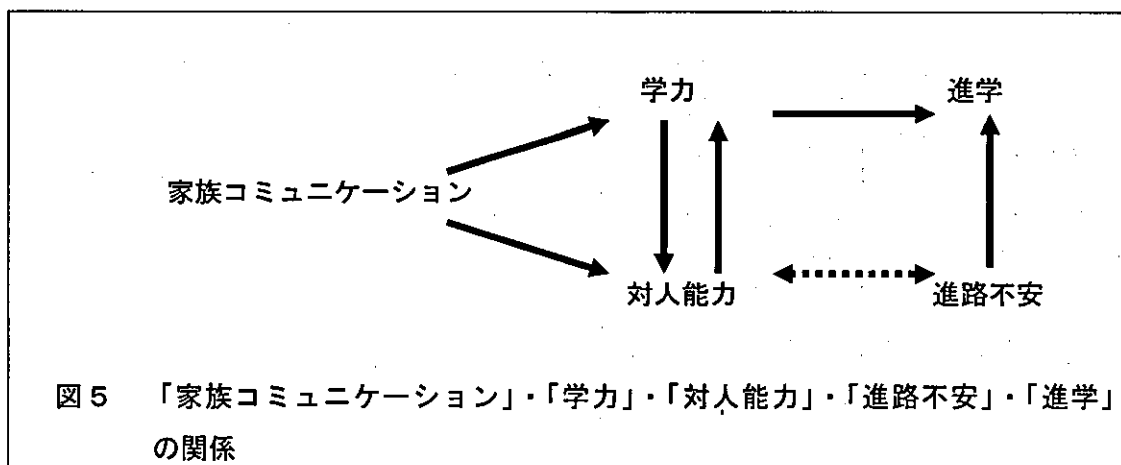
注) +: p<0.1 \* : p<0.05 \*\*\* : p<0.001

表5に明らかなように、「四年制大学進学志望」に対して「対人能力」は直接に影響していないが、「進路不安」は強い影響力を及ぼしている。「対人能力」の高低による進学志望の差異は、実際には「進路不安」を経由する形で生じていることが表5からはうかがえる。

また、表5と同様の分析を、表4と同じ学力別に行った結果を、「対人能力」と「進路不安」について示したものが表6である。学力をコントロールしても、やはり「対人能力」は進学に直接影響しておらず、「進路不安」の直接的な影響が見出される。そして「進路不安」の進学への影響は、男子ではどちらかといえば「学力」が低い者において顕著なのに対して、女子では逆に「学力」が高い者において強く表れている。その原因についてはここでは明らかでないが、おそらく、男子で「学力」が高い者では四年制大学への進学が当然視されており、逆に女子で「学力」が低い者では四年制大学に進学しないことが当然であるために、「進路不安」が影響する余地がないことによるものと思われる。すなわち、ここには進路規範のジェンダー差異が機能していると推測される。

表6 学力別 「四年制大学進学志望」の規定要因（ロジスティック回帰分析、数値はB）

		学力低	学力中	学力高
男子	対人能力			
	進路不安	*	*	+
	-2対数尤度	216.054	366.595	119.215
	Cox & Snell R二乗	0.022	0.032	0.079
	Nagelkerke R二乗	0.049	0.042	0.166
N	381	273	210	
女子	対人能力			
	進路不安		*	**
	-2対数尤度	86.549	367.894	319.687
	Cox & Snell R二乗	0.004	0.074	0.131
	Nagelkerke R二乗	0.017	0.105	0.196
N	302	328	331	



上記の分析結果を図4に追加して示したものが図5である。やはり破線はネガティブな関係を意味している。

この図5には、ここまでの分析結果が集約されている。その意味するところを改めてまとめておこう。高校生の中で全体としては「対人能力」と「学力」は片方が高ければ他方も高い、片方が低ければ他方も低いという関係にある(特に男子)。このような「対人能力」と「学力」は、いずれも家族関係の良好さによって強く規定されている。「対人能力」は「進路不安」を低めるはたらきをもつが、「学力」にはそのようなはたらきはみられない。そして高校卒業後の進路志望として大学等への進学を選ぶか否かは、全体としては「学力」に強く規定されているが、「学力」をコントロールしてみた場合、「対人能力」が低く「進路不安」が高い者の中に他の進路よりもむしろ進学を選択する比率が高くなっている。これを、たとえば四年制大学進学志望者を母集団として考えた場合、その中には「学力」も「対人能力」も高い「積極的進学者」層(図中で【「対人能力」(高)－「学力」(高)－「進学」】の連関として表れる)と、他方に「対人能力」が相対的に低く「進路不安」が強い「逃避的進学者」層(図中で【「対人能力」(低)－「進路不安」(高)－「進学」】の連関として表れる)層の両者が含まれることになると考えられる。この後者が潜在的に抱える問題は、彼らの大学生活への適応や、大学卒業後の進路決定の際に、やがて顕在化することになると予測される。

##### 5. まとめ——「メリトクラシーの弛緩」後の高校生に浮かび上がるもの

本章では、現代の高校教育におけるメリトクラシーの弛緩がもたらした空隙に浮上している側面として高校生の「対人能力」に注目し、その規定要因と帰結に関するデータ分析を行った。分析結果は、「対人能力」という要素が、高校生活や進路意識・進路志望を分岐させる重要な軸のひとつとなりつつあるということを証拠づけるものであった。また分析では、家族のコミュニケーション関係の良好さが高校生の「対人能力」を大きく左右するという連関が見出された。こうして形成される「対人能力」は、高校生の進路意識の明確さとも密接な関係にある。現時点では高卒後の進路は「学力」という旧来の選抜基準によって決定される側面が大きいですが、その「学力」は進路意識の明確さとは無関係であった。それゆえ、進路意識が明確でない生徒であっても大学等への進学は可能である。こうして、実際には高校生の中で着実に進行している「対人能力」や進路意識による分化は、高校卒業時点では可視化されにくく、より重大な岐路は卒業以後に先送りされる結果になる。

それならば、実態としてはすでに高校生の間で重要化している「対人能力」に対して、より社会的・制度的な関心が払われる必要があるだろう。「対人能力」を、高校在学中に可能な限り高めるためにはどのような手法がありえるのかについて、真摯な検討の目が注がれるべきである。現在のところ、その形成は家族という領域に大きく依存しているが、それは結局、高校生自身にとっては如何ともしがたい格差や不平等が存続することを許す結

果になっている。そうした不公平をできる限り補正するために高校教育が何をなし得るかを考えなければならない。その際のひとつの手がかりは、少なくとも男子にとっては、専門高校への在学が「対人能力」とプラスの関係にあるということである。職業的な意義が目に見えやすい教育が「対人能力」の向上に寄与するという可能性は、追求するに値する。確かなのは、高校教育が「学力」の形成のみに専心していればよい時代が終わりを告げようとしていることだ。

【注】

(1)主成分分析の結果は付表1に示した。

付表1 高校生の「能力」・資質に関する主成分分析結果（バリマックス回転後）

	第1 主成分	第2 主成分	第3 主成分	第4 主成分	第5 主成分	第6 主成分
A. どんな仕事をしたいのかわからない	-0.140	0.835	-0.023	-0.012	0.069	0.039
B. 自分のやりたい仕事をしぼるのはまだ早いと思う	0.068	0.737	-0.089	-0.014	0.033	0.059
C. 自分の進路について今でも悩んでいる	-0.024	0.687	0.141	-0.099	0.143	0.076
D. 学校の成績で将来が決まると思う	-0.052	0.122	0.054	0.064	0.774	0.060
E. お金は計画的につかうほうだ	0.022	0.001	0.124	0.582	0.120	-0.139
F. 将来よりも今の生活を楽しまたいと思う	0.066	0.227	-0.151	0.075	-0.126	0.580
G. 時間には正確なほうだ	0.095	-0.065	0.028	0.783	0.003	0.063
H. 自分には10年後の目標がある	0.353	-0.555	0.120	0.013	0.109	-0.038
I. 進路について今、真剣に考えないと将来困ると思う	0.056	-0.177	0.651	-0.006	0.306	-0.052
J. 社会でうまくやっていけるか不安だ	-0.380	0.146	0.569	0.009	0.111	0.238
K. 起こされなくても、朝は一人で起きられるほうだ	0.105	-0.045	0.018	0.667	-0.018	0.040
L. 友だちから悩み事を打ち明けられることが多い	0.638	-0.013	0.100	0.097	-0.015	0.033
M. 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	0.745	-0.112	-0.012	0.061	-0.008	0.074
N. 友だちが間違ったことをしたら指摘すべきだと思う	0.452	-0.019	0.524	0.017	-0.174	0.111
O. 若いうちはやりたくない仕事にはつきたくない	0.041	-0.001	0.099	-0.079	0.113	0.773
P. 自分には人を引っばっていく力がある	0.736	-0.110	-0.064	0.068	0.110	0.022
Q. 社会のルールやマナーを守るとは大切だと思う	0.105	-0.004	0.650	0.199	-0.041	-0.172
R. 嫌いな人、苦手な人もうまく付き合う努力をしている	0.445	0.051	0.325	0.099	-0.036	-0.329
S. 学校の成績と仕事の能力には関係があると思う	0.077	0.034	0.049	0.038	0.778	-0.038
固有値	2.980	2.031	1.618	1.289	1.204	1.082
説明される分散の%	15.685	10.690	8.518	6.782	6.337	5.694

(2) 5項目のスコアの総和が尺度として一貫性が高いかどうかを示すクロンバッハの $\alpha$ 値は0.6510であり、一貫性はかなり高い。

(3) 8項目に関するクロンバッハの $\alpha$ 係数は.7841で尺度としての一貫性は高い。

(4) 「学校適応」は「授業内容は面白い」「高校の勉強はやりがいがある」「高校での勉強は将来、就職する際に必要だ」「部（クラブ）活動に打ち込んでいる」「仕事に必要な技能を身につけられる」「先生は私が高校でがんばることを期待している」の6項目のスコア（各1点～4点）を合計したもの。クロンバッハの $\alpha$ 係数は.6643で尺度としての一貫性は高い。

(5) 「進路不安」は「どんな仕事をしたいのかわからない」「自分の進路について今でも悩んでいる」「社会でうまくやっっていけるか不安だ」の3項目のスコア（各1点～4点）を合計したもの。クロンバッハの $\alpha$ 係数は.5401。

(6) 「対人能力」総合スコアを構成する5項目のいずれが「進路不安」との関係が強いかをみるために、表3の分析モデルの「対人能力」総合スコアの代わりに5項目それぞれの個別スコアを投入して分析を行った結果が付表2である。男子では「友だちが間違っことをしたら指摘すべきだと思う」のみが有意でない。女子では5項目すべてが「進路不安」と強い関係をもっている。

付表2 「進路不安」に対する「対人能力」5項目の影響（重回帰分析）

	友だちか ら悩みを 打ち明け られる	自分の考 えを伝え られる	友だちの 間違いを 指摘す べき	人を引 張って いく力 がある	嫌いな 人とも まっ付 合う
男子	***	***		***	*
女子	***	***	***	***	***

注) + :  $p < 0.1$  \* :  $p < 0.05$  \*\*\* :  $p < 0.001$

#### [参考文献]

樋田大二郎・耳塚寛明・岩木秀夫・荻谷剛彦編著, 2000, 『高校生文化と進路形成の変容』学事出版.

尾嶋史章編著, 2001, 『現代高校生の計量社会学』ミネルヴァ書房.

竹内洋, 1995, 『日本のメリトクラシー』東京大学出版会.

# 高校生の進路活動の実態

元治恵子

(立教大学 武蔵大学)

高校3年生の進路活動に焦点をあて、その実態を記述的に明らかにするとともに、活動を規定する要因、そして、決定している進路との関連を検討した。進路に向けた活動は、おおむね希望進路に添った形で行われているが、「就職」や「短大・大学」進学希望者に比べ、「専門・各種」学校への進学や「フリーターなど」進路が明確でない者では、進学、就職双方の活動に分散しており、非常に流動的な層である。進路希望に向けた進路活動をうながすには、本人自身やメリトクラティックな側面に加え、親の役割も重要であることが示唆された。また、調査時点での決定進路と活動状況との関連については、進学の場合、進学先決定者（推薦入試による）では、早い時期での活動開始が重要なポイントとなっており、未決定者の場合、9月以降も活動量が減少しないことが確認された。一方、就職の場合、正社員として内定を得るためには、早い時期での活動開始とそれに応じた活動量が必要となってくるといえよう。

## 1. はじめに

バブル崩壊後平成3年（1991）以降、完全失業者数は増加しており、平成15年（2003）に、350万人（前年比9万人減）と13年ぶりに減少したものの、完全失業率は、平成13年に初の5%台になって以降3年連続で5%台となっている。とくに、若年層、学歴の低い者で完全失業率が高い状況にある（『労働力調査』総務省統計局）。また、『平成17年3月高校・中学新卒者の就職内定状況等（平成16年9月末現在）』（厚生労働省 2004a）によると、平成16年9月末現在における来春の高校新卒者の就職内定者数は7万7千人（前年同期比10.6%増）、就職内定率は38.9%（同4.4%増）であった。若干、回復の兆しがあるが、依然厳しい状況にある。調査対象となっている平成16年3月末に高校を卒業した者の就職内定状況（平成16年3月末現在）（厚生労働省 2004b）をみると、就職内定者数は16万3千人（前年同期比1.6%増）、就職内定率は92.1%であった。

このような状況を背景に、パートタイム労働者として入職する新規学卒者（高卒者でとくに多い）や、フリーター、ニートなどが急増しており、若年層の就業に関する対策が講じられつつある。

中学校を卒業した者のほとんどが高校へ進学する状況は、高校の序列化を生み、どの高校に入るかによって、卒業後の進路選択の機会と範囲が大きく限定される。しかし、同一の高校においても、進路の決定する者とならない者がいる。進路活動を行わなければ、当然のことながら、進路は決定しない。近年、高校卒業後の進路をめぐる状況においても、さまざまな変化が生じている。前述したような若年労働市場の逼迫による高卒者の就職状況の悪化の一方で、少子化により、以前に比べ、高等教育への進学が容易になっていること

などである（耳塚 2000）。このような社会状況の中で、高校卒業後の進路に向け、生徒たちはどのような活動をしているのだろうか。本稿では、高校3年次の進路活動の実態を把握するとともに、活動を規定する要因や決定した進路と活動状況の関係を明らかにすることを目的とする。

## 2. 高校卒業後の予定進路

活動状況に分析に入る前に、活動の結果をある程度反映していると考えられる調査時点（高校3年時の1月）における高校卒業後の予定進路の分布を確認しておこう。高校卒業後の予定進路を男女別に見たものが、表1である。男子では、「4年生大学：進学先決定済み」が、最も多く4分の1を占めている。ついで、「4年生大学：進学先未決定（24.0%）」、「正社員内定あり（22.4%）」となっている。一方、女子は、「専門・各種学校：進学先決定済み（20.2%）」が最も多く、「4年生大学：進学先未決定（18.2%）」、「4年生大学：進学先決定済み（18.0%）」が続いて大きな比率を占めている。データは、示さないが、男女ともに、「4年生大学：進学先未決定」の生徒は、ランクの高い、いわゆる進学校といえる高校で多い傾向が見られる。

表1 高校卒業後の予定進路

高校卒業後の予定進路	男子	女子
正社員内定あり	22.4	15.1
正社員未内定	4.3	4.9
フリーター	1.6	2.4
家業手伝い	0.5	0.2
専門・各種学校：進学先決定済み	14.6	20.2
専門・各種学校：進学先未決定	2.0	3.5
短大：進学先決定済み	2.3	11.7
短大：進学先未決定	1.0	2.2
4年制大学：進学先決定済み	24.3	18.0
4年制大学：進学先未決定	24.0	18.2
その他	0.3	1.1
卒業後まったく未定	0.8	0.5
進学希望：詳細不明	2.0	2.0
正社員内定あり+専門学校進学先決定済み	0.0	0.0
合計	100.0	100.0
(N)	(3680)	(3854)

## 3. 希望進路別進路活動状況

それでは、進路決定に向け、実際にどのような活動をしているのだろうか。調査では、進路全般の活動、進学関係の10項目の活動、就職関係の10項目の活動の計21の活動に関

する活動状況が、時期（「4～5月」、「6～8月」、「9月」、「10～12月」の4つの時期）ごとに質問されている。進路決定のためには、進路希望が明確であることや活動開始時期が早いことなどが影響をあたえるだろう。また、進路活動は、希望進路に沿った形で行われていくだろう。よって、本節では、高校3年4月時点の希望進路別<sup>(1)</sup>に、活動ごとに、活動していない生徒がどの程度いるのか、また、活動した生徒がどの時期に活動を開始したのか、を記述的に見ていくことにする。進学希望の生徒でも、就職関係の活動をしている生徒もいること、逆に就職希望の生徒でも、進学関係の活動をしている生徒もいることから、進路希望にかかわらず、すべての活動状況についての分析結果を示すこととする（表2～22）。

### 3.1 進路全般についての活動状況

まず、進路全般に関する活動状況は、「進路一般について進路指導の先生や担任の先生に相談した」という質問文で問われている（表2）。希望進路にかかわらず、男子のほうが女子よりも「活動なし（調査票での回答選択肢は「一度もしなかった）」の生徒が多い傾向が見られ、とくに「フリーターほか」の生徒では、10ポイント以上の開きがあることがわかる。また、進学希望者は、「4～5月」に活動を開始した生徒が多く、就職希望者は、「6～8月」に活動を開始した生徒が多いが、一方で、「短大・大学」希望者は、「10～12月」になりやっとな活動を開始した者も多い。この間は、進路指導や担任の先生という在籍する高校の教員へ相談を尋ねており、学校生活へのコミットメントの一側面を示していると考えられる。「フリーターほか」で、「活動なし」の生徒が多く、これまで、指摘されてきたように、他の進路を希望している者に比べ、学校生活へのコミットメントが低いことが示唆される。

表2 進路全般についての相談（問12A）

	活動なし	活動あり（開始時期）				合計	(N)
		4～5月	6～8月	9月	10～12月		
就職	17.0	28.3	33.0	14.2	7.5	100.0	(869)
専門・各種	21.3	28.3	28.3	15.6	6.5	100.0	(508)
男子 短大・大学	14.9	35.4	23.5	13.0	13.2	100.0	(1778)
フリーターほか	28.4	18.5	28.1	12.8	12.2	100.0	(352)
合計	17.7	30.9	27.0	13.6	10.7	100.0	(3507)
就職	12.4	31.3	36.9	11.8	7.5	100.0	(651)
専門・各種	13.5	37.6	30.7	12.7	5.5	100.0	(785)
女子 短大・大学	12.2	42.3	25.6	11.9	8.1	100.0	(1888)
フリーターほか	17.5	27.7	29.4	16.5	8.9	100.0	(394)
合計	13.1	37.8	29.0	12.5	7.5	100.0	(3718)



### 3.2 進学関係の活動状況

#### 3.2.1 進路相談

進路相談は、「学校での進学先の相談（「具体的な進学先について進路指導の先生や担任の先生に相談した」）（表 3）」と「塾や予備校での進路相談（「塾や予備校での進路相談を受けた」）（表 4）」の2つの活動が質問されている。

表 3 学校での進学先の相談（問 12B）

	活動なし	活動あり（開始時期）				合計	(N)
		4～5月	6～8月	9月	10～12月		
就職	68.3	6.2	11.7	8.3	5.4	100.0	(900)
専門・各種	24.9	17.3	29.3	20.1	8.4	100.0	(502)
男子 短大・大学	18.5	23.5	21.4	18.0	18.6	100.0	(1786)
フリーターほか	46.8	9.3	17.1	15.6	11.1	100.0	(333)
合計	34.8	16.8	19.7	15.6	13.1	100.0	(3521)
就職	67.0	8.0	11.6	8.2	5.2	100.0	(672)
専門・各種	19.6	23.2	29.6	19.7	8.0	100.0	(777)
女子 短大・大学	14.5	26.9	26.0	18.0	14.5	100.0	(1899)
フリーターほか	30.5	14.5	23.4	17.6	13.9	100.0	(380)
合計	26.7	21.5	23.9	16.6	11.4	100.0	(3728)

表 4 塾や予備校での進路相談（問 12H）

	活動なし	活動あり（開始時期）				合計	(N)
		4～5月	6～8月	9月	10～12月		
就職	98.8	0.1	0.5	0.3	0.3	100.0	(885)
専門・各種	95.5	0.8	2.6	1.0	0.0	100.0	(493)
男子 短大・大学	76.8	8.4	6.5	4.2	4.0	100.0	(1779)
フリーターほか	93.3	2.4	1.5	0.9	1.8	100.0	(329)
合計	86.6	4.7	3.9	2.5	2.3	100.0	(3486)
就職	99.2	0.5	0.0	0.3	0.0	100.0	(658)
専門・各種	93.8	2.5	1.6	1.3	0.9	100.0	(772)
女子 短大・大学	75.1	13.1	6.1	3.1	2.6	100.0	(1896)
フリーターほか	91.3	3.2	3.2	0.8	1.6	100.0	(379)
合計	84.9	7.6	3.8	2.0	1.7	100.0	(3705)

「学校での進学先の相談」では、女子のほうが、相談している比率は高いものの、男女とも、「専門学校・各種学校」進学希望者よりも、「短大・大学」希望者のほうが、相談している傾向が見られる。一方、「塾や予備校での進路相談」は、「短大・大学」希望者でも、4分の1程度が相談しているに過ぎず、他の進路希望者では、9割以上が、相談をしていない。全般的には、学校での相談に比べて、かなり活動が少ないことがわかる。しかし、

「短大・大学」希望者以外で、塾や予備校に通っていない生徒が多いということを考慮する必要があるだろう。一方で、後で示す「塾や予備校での勉強（表7）」から、「短大・大学」希望者の4割弱が、塾や予備校に通っている生徒と考えられ、このことから、これらの生徒の3分の2程度は、相談していることが推測される。「短大・大学」希望者においても、学校での相談の方が、塾や予備校での相談よりも多いといえそうである。

### 3.2.2 勉強

勉強に関連するものは、「進学試験のための補講や勉強（「進学試験のための補講を受けたり勉強した）」（表5）、「進学模試受験（「進学模試を受けた）」（表6）、「塾や予備校での勉強（「塾や予備校に通って勉強した）」（表7）」の3つの活動である。

表5 進学試験のための補講や勉強（問12D）

	活動なし	活動あり（開始時期）				合計	(N)
		4～5月	6～8月	9月	10～12月		
就職	90.0	1.5	2.2	3.3	3.0	100.0	(892)
専門・各種	61.9	8.0	13.6	8.6	8.0	100.0	(501)
男子 短大・大学	20.1	32.4	25.5	12.0	9.9	100.0	(1789)
フリーターほか	64.8	7.8	11.1	8.4	7.8	100.0	(332)
合計	48.0	18.8	16.6	9.0	7.7	100.0	(3514)
就職	87.5	2.6	3.8	2.7	3.5	100.0	(662)
専門・各種	48.5	12.7	18.8	11.7	8.2	100.0	(777)
女子 短大・大学	15.4	40.2	27.5	8.8	8.1	100.0	(1899)
フリーターほか	50.1	15.7	15.1	7.3	11.7	100.0	(383)
合計	38.7	25.2	20.2	8.2	7.7	100.0	(3721)

表6 進学模試受験（問12E）

	活動なし	活動あり（開始時期）				合計	(N)
		4～5月	6～8月	9月	10～12月		
就職	94.7	2.1	1.2	0.7	1.2	100.0	(886)
専門・各種	76.6	13.9	4.6	2.0	2.8	100.0	(496)
男子 短大・大学	25.4	51.7	12.8	4.9	5.3	100.0	(1786)
フリーターほか	71.5	16.7	7.6	1.5	2.7	100.0	(330)
合計	54.6	30.5	8.2	3.1	3.7	100.0	(3498)
就職	95.0	3.0	1.1	0.6	0.3	100.0	(659)
専門・各種	64.5	24.0	6.1	3.0	2.5	100.0	(771)
女子 短大・大学	19.9	62.1	11.8	3.2	2.9	100.0	(1881)
フリーターほか	61.4	25.8	7.4	2.4	2.9	100.0	(376)
合計	46.9	39.9	8.2	2.6	2.4	100.0	(3687)

表7 塾や予備校での勉強（問12G）

	活動なし	活動あり（開始時期）				合計	(N)
		4～5月	6～8月	9月	10～12月		
就職	98.0	0.9	0.6	0.5	0.1	100.0	(886)
専門・各種	95.4	1.8	2.2	0.6	0.0	100.0	(497)
男子 短大・大学	63.4	23.3	8.3	2.8	2.2	100.0	(1787)
フリーターほか	90.6	4.8	1.8	1.5	1.2	100.0	(330)
合計	79.3	12.8	4.9	1.8	1.3	100.0	(3500)
就職	98.9	0.6	0.3	0.2	0.0	100.0	(658)
専門・各種	91.6	5.6	1.3	0.9	0.6	100.0	(774)
女子 短大・大学	63.8	24.9	7.6	1.8	1.9	100.0	(1901)
フリーターほか	90.5	6.6	1.3	1.1	0.5	100.0	(380)
合計	78.6	14.7	4.4	1.2	1.2	100.0	(3713)

どの活動も、進学希望者では、女子のほうが活動している傾向が見られる。また、「専門・各種学校」への進学を希望している生徒と「短大・大学」への進学を希望している生徒では、活動している割合が大きく異なる。「専門・各種学校」進学希望者は、進学すると言っても、活動状況という点では、むしろ「フリーターほか」と類似する傾向が見られる。つまり、勉強に関連する活動においては、「短大・大学」進学希望者で活動ありの者が多く、かつ、早い時期から活動している者が多い。とくに、「進学模試受験」では、「4～5月」の時点で、「短大・大学」への進学希望者の半数以上が受験しており、早い段階から入試に向けた準備がされていることが確認できる。

### 3.2.3 進学先へのアプローチ

進学先の情報を得ることは、進学決定のための第一歩と考えられるが、「学校案内の閲覧・取り寄せ（「進学のために学校案内を見たり取り寄せたりした」）（表8）」と「オープンキャンパス参加（「オープンキャンパスに参加した」）（表9）」の2つの活動が質問されている。

まず、「学校案内の閲覧・取り寄せ」をみてみよう。進路希望者では、9割以上が活動しており、就職希望者でも3割弱が活動している。就職希望ではあるが、はっきりと進路を決められなかったり、また、就職活動をしていく段階で、進学する（多くは専門・各種学校だと推測するが）ことも考えたり、進路希望にゆれが生じている可能性が示唆される。

つぎに、「オープンキャンパス参加」をみると、進学希望者の女子で7割弱、男子で5割前後が経験しており、「6～8月」に活動を開始した生徒が突出して多いことがわかる。また、希望進学先による大きな違いは見られない。一方、就職希望者では、1割弱程度しか経験者はおらず、希望進学先に出向くという、どちらかというとな積極的な活動までを経験している者は少ないということがわかる。

表 8 学校案内の閲覧・取り寄せ (問 12C)

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	77.8	3.1	6.9	5.6	6.6	100.0	(897)
専門・各種	11.6	30.8	34.0	14.8	8.8	100.0	(500)
男子 短大・大学	8.4	21.3	29.1	18.0	23.2	100.0	(1791)
フリーターほか	33.8	10.0	22.1	19.6	14.5	100.0	(331)
合計	29.0	16.9	23.5	14.5	16.1	100.0	(3519)
就職	74.3	7.8	9.1	4.9	3.9	100.0	(668)
専門・各種	6.3	43.6	34.7	11.1	4.2	100.0	(777)
女子 短大・大学	2.8	37.4	32.7	13.9	13.2	100.0	(1907)
フリーターほか	22.2	25.1	28.2	14.0	10.6	100.0	(379)
合計	18.3	32.1	28.4	11.7	9.4	100.0	(3731)

表 9 オープンキャンパス参加 (問 12F)

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	93.6	0.6	2.8	1.0	2.0	100.0	(886)
専門・各種	47.5	4.2	35.0	9.1	4.2	100.0	(497)
男子 短大・大学	51.6	4.6	32.2	7.8	3.9	100.0	(1782)
フリーターほか	68.3	0.9	19.3	5.7	5.7	100.0	(331)
合計	63.2	3.2	23.9	6.1	3.6	100.0	(3496)
就職	91.6	0.3	5.3	1.7	1.1	100.0	(658)
専門・各種	33.9	7.1	47.3	8.0	3.6	100.0	(773)
女子 短大・大学	34.4	5.0	49.7	6.5	4.4	100.0	(1895)
フリーターほか	49.2	3.7	34.3	8.2	4.5	100.0	(376)
合計	46.0	4.5	39.8	6.1	3.6	100.0	(3702)

### 3.2.4 推薦入試

男子で4割、女子で5割の生徒の進学先が決定しているが、推薦入試の活動状況はどのようなになっているのだろうか。「指定校推薦入試」、「公募制推薦入試」、「自己推薦・AO入試」の3種類の推薦入試の活動状況の結果を示したのが、表10～表12である。

まず、どの推薦入試においても、就職希望者のほとんどの者は経験していないことがわかる。また、活動開始時期は「10～12月」が、最も多い。この時期に推薦入試の多くが行われることを反映した結果といえるだろう。推薦入試別にみると、指定校推薦入試では、「フリーターほか」を希望していた者でも、進学希望者と大きな差がみられず、高校3年次の4月の時点で進学希望が明確であるか否かは、指定校推薦入試の活動に大きな影響はなさそうである。公募制推薦入試において、最も男女の差が見られる。特に「専門・各種学校」と「フリーターなど」では、10ポイント以上女子のほうが経験している。推測の域

表 10 指定校推薦入試 (問 12I)

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	95.8	0.1	0.3	1.0	2.7	100.0	(884)
専門・各種	79.8	0.4	1.2	4.9	13.7	100.0	(489)
男子 短大・大学	81.7	0.6	0.9	2.1	14.6	100.0	(1771)
フリーターほか	86.3	0.0	0.6	3.0	10.1	100.0	(328)
合計	85.5	0.4	0.8	2.3	11.0	100.0	(3472)
就職	97.3	0.0	0.2	0.2	2.4	100.0	(656)
専門・各種	82.5	0.3	1.4	3.0	12.8	100.0	(766)
女子 短大・大学	79.4	0.4	0.3	2.7	17.2	100.0	(1885)
フリーターほか	80.8	0.8	0.3	2.9	15.2	100.0	(375)
合計	83.4	0.4	0.5	2.3	13.4	100.0	(3682)

表 11 公募制推薦入試 (問 12J)

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	96.3	0.2	0.2	0.7	2.6	100.0	(884)
専門・各種	74.6	0.6	1.2	3.9	19.6	100.0	(489)
男子 短大・大学	78.9	0.3	0.9	2.1	17.8	100.0	(1761)
フリーターほか	86.9	0.0	0.3	2.7	10.1	100.0	(328)
合計	83.5	0.3	0.7	2.1	13.5	100.0	(3462)
就職	94.0	0.0	0.2	1.5	4.3	100.0	(654)
専門・各種	63.4	0.5	0.5	6.4	29.2	100.0	(765)
女子 短大・大学	72.2	0.2	0.2	1.1	26.3	100.0	(1884)
フリーターほか	71.6	0.0	0.5	2.7	25.2	100.0	(373)
合計	74.2	0.2	0.3	2.4	22.9	100.0	(3676)

表 12 自己推薦・AO入試 (問 12K)

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	96.4	0.5	0.2	1.0	1.9	100.0	(883)
専門・各種	89.3	0.2	0.8	2.1	7.6	100.0	(487)
男子 短大・大学	88.2	0.3	2.6	2.8	6.1	100.0	(1764)
フリーターほか	90.5	0.0	1.8	1.8	5.8	100.0	(325)
合計	90.6	0.3	1.6	2.2	5.2	100.0	(3459)
就職	98.3	0.0	0.2	0.2	1.4	100.0	(654)
専門・各種	90.1	0.1	1.2	2.0	6.7	100.0	(765)
女子 短大・大学	87.1	0.4	2.9	2.7	6.9	100.0	(1879)
フリーターほか	92.0	0.3	0.8	1.6	5.3	100.0	(376)
合計	90.2	0.3	1.8	2.0	5.7	100.0	(3674)

を出ないが、男女では、進学を希望する専門・各種学校などの種類（分野）が異なり、女子が希望するような学校で公募制推薦入試が多く行われていることを、反映している可能性が考えられる。

### 3.3 就職関係の活動状況

#### 3.3.1 会社情報の入手

就職を希望する企業などの情報を得る活動は、「求人票閲覧（「求人票を見た」）（表13）」、「進路指導室の資料閲覧（「進路指導室の資料を見た」）（表14）」、「会社説明会・職場見学会参加（「会社説明会や職場の見学会に参加した」）（表15）」、「ジュニアワークフェア参加（「ジュニアワークフェアに参加した」）（表16）」の4つである。

表13 求人票閲覧

	活動なし	活動あり（開始時期）				合計	(N)
		4～5月	6～8月	9月	10～12月		
就職	12.3	31.0	38.6	13.2	4.9	100.0	(873)
専門・各種	75.4	5.8	9.1	5.0	4.7	100.0	(516)
男子 短大・大学	92.8	1.9	2.1	1.7	1.5	100.0	(1812)
フリーターほか	57.1	6.8	22.3	8.9	4.8	100.0	(336)
合計	67.0	10.1	14.1	5.7	3.1	100.0	(3537)
就職	9.6	27.6	45.5	12.2	5.1	100.0	(664)
専門・各種	75.0	4.8	10.0	6.0	4.1	100.0	(797)
女子 短大・大学	92.2	1.7	2.5	1.9	1.7	100.0	(1925)
フリーターほか	61.8	10.5	14.1	8.7	4.9	100.0	(390)
合計	70.9	7.8	12.9	5.3	3.1	100.0	(3776)

表14 進路指導室の資料閲覧

	活動なし	活動あり（開始時期）				合計	(N)
		4～5月	6～8月	9月	10～12月		
就職	27.6	18.0	33.0	14.6	6.8	100.0	(877)
専門・各種	73.7	5.8	8.4	7.2	4.9	100.0	(513)
男子 短大・大学	86.2	2.9	4.0	3.8	3.1	100.0	(1812)
フリーターほか	59.5	5.0	17.5	9.8	8.3	100.0	(338)
合計	67.3	7.3	13.1	7.5	4.8	100.0	(3540)
就職	22.2	20.3	38.1	13.8	5.6	100.0	(661)
専門・各種	67.3	9.2	10.7	8.5	4.4	100.0	(797)
女子 短大・大学	76.9	8.5	6.1	4.5	4.1	100.0	(1925)
フリーターほか	58.0	13.7	12.9	10.1	5.4	100.0	(388)
合計	63.3	11.2	13.4	7.6	4.5	100.0	(3771)

表 15 会社説明会・職場見学会参加

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	54.6	5.0	21.9	11.5	7.0	100.0	(862)
専門・各種	91.8	1.2	2.3	2.9	1.8	100.0	(513)
男子 短大・大学	97.6	0.4	1.1	0.8	0.2	100.0	(1811)
フリーターほか	84.5	1.5	6.3	3.6	4.2	100.0	(335)
合計	85.0	1.7	6.9	4.0	2.4	100.0	(3521)
就職	51.4	3.9	26.8	9.2	8.6	100.0	(661)
専門・各種	90.0	0.9	3.7	2.5	2.9	100.0	(793)
女子 短大・大学	97.7	0.2	1.1	0.5	0.6	100.0	(1923)
フリーターほか	85.6	1.3	5.2	4.4	3.6	100.0	(388)
合計	86.7	1.1	6.6	2.8	2.8	100.0	(3765)

表 16 ジュニアワークフェア参加

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	94.7	0.6	2.4	1.7	0.7	100.0	(843)
専門・各種	99.2	0.0	0.2	0.6	0.0	100.0	(511)
男子 短大・大学	99.2	0.2	0.3	0.2	0.1	100.0	(1809)
フリーターほか	98.2	0.0	0.9	0.6	0.3	100.0	(330)
合計	98.0	0.2	0.8	0.7	0.3	100.0	(3493)
就職	93.2	0.8	2.9	1.1	2.0	100.0	(651)
専門・各種	98.4	0.0	0.9	0.4	0.4	100.0	(791)
女子 短大・大学	99.7	0.0	0.2	0.1	0.1	100.0	(1922)
フリーターほか	95.6	0.5	1.3	1.0	1.6	100.0	(387)
合計	97.9	0.2	0.9	0.4	0.6	100.0	(3751)

希望進路を反映し、どの活動においても、活動ありの者は、「就職」>「フリーターなど」>「専門・各種学校」>「短大・大学」の順に減っていることが確認できる。また、活動開始のピークは、「6~8月」であり、最も活動ありの多い「求人票の閲覧」でも、就職希望者ですら、「4~5月」に活動を開始している者は、3割程度にとどまっている。

### 3.3.2 就職試験のための準備と就職試験

就職試験のための準備活動と就職試験は、「職業適性検査受験(「職業適性検査を受けた」)(表 17)」、「就職試験のための補講や勉強(「就職試験(公務員試験を含む)のための補講を受けたり勉強した」)(表 18)」、「(就職模試受験「就職模試(公務員試験を含む)を受けた」)(表 19)」、「面接練習(「就職試験(公務員試験を含む)にそなえて面接の練習をした(模擬面接を含む)」)(表 20)」、「髪型や服装を整えた(「試験を受けるために髪型や服装

表 17 職業適性検査受験

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	49.7	13.4	15.2	15.6	6.2	100.0	(861)
専門・各種	85.0	5.3	4.3	3.9	1.6	100.0	(512)
男子 短大・大学	93.9	2.8	1.8	0.9	0.6	100.0	(1812)
フリーターほか	74.4	6.9	7.2	6.9	4.5	100.0	(332)
合計	80.0	6.1	5.9	5.5	2.5	100.0	(3517)
就職	49.0	15.7	15.0	13.2	7.1	100.0	(645)
専門・各種	85.3	7.9	2.8	2.3	1.8	100.0	(795)
女子 短大・大学	94.2	3.1	1.7	0.6	0.5	100.0	(1923)
フリーターほか	80.9	9.0	3.9	4.6	1.5	100.0	(388)
合計	83.2	6.9	4.4	3.5	2.0	100.0	(3751)

表 18 就職試験のための補講や勉強

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	57.9	11.9	18.0	8.7	3.5	100.0	(859)
専門・各種	92.2	1.4	3.3	2.1	1.0	100.0	(513)
男子 短大・大学	97.2	0.7	1.5	0.4	0.2	100.0	(1815)
フリーターほか	85.6	3.0	7.8	2.7	0.9	100.0	(333)
合計	85.8	3.8	6.4	2.9	1.2	100.0	(3520)
就職	54.1	15.1	18.3	8.8	3.7	100.0	(656)
専門・各種	94.5	1.0	2.5	1.8	0.3	100.0	(796)
女子 短大・大学	97.8	0.7	0.9	0.6	0.1	100.0	(1925)
フリーターほか	84.9	4.9	5.6	2.6	2.1	100.0	(390)
合計	88.1	3.7	4.8	2.5	0.9	100.0	(3767)

表 19 就職模試受験

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	62.1	12.5	11.5	11.1	2.8	100.0	(854)
専門・各種	93.0	1.4	1.8	2.3	1.6	100.0	(514)
男子 短大・大学	97.2	0.8	0.5	1.0	0.4	100.0	(1812)
フリーターほか	84.6	3.6	4.2	5.4	2.1	100.0	(332)
合計	86.9	4.0	3.7	4.1	1.3	100.0	(3512)
就職	59.1	19.4	9.5	9.1	2.9	100.0	(651)
専門・各種	95.0	1.5	1.8	1.5	0.3	100.0	(796)
女子 短大・大学	97.9	0.5	0.7	0.7	0.3	100.0	(1922)
フリーターほか	89.2	5.2	2.8	1.8	1.0	100.0	(388)
合計	89.6	4.4	2.7	2.4	0.8	100.0	(3757)



表 20 面接練習

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	27.4	7.7	33.3	21.4	10.1	100.0	(919)
専門・各種	87.0	0.4	4.0	4.6	4.0	100.0	(524)
男子 短大・大学	97.1	0.4	1.2	0.8	0.5	100.0	(1827)
フリーターほか	74.9	1.4	13.6	6.0	4.1	100.0	(367)
合計	75.8	2.3	11.0	7.1	3.8	100.0	(3637)
就職	26.2	10.6	34.9	20.4	7.9	100.0	(682)
専門・各種	89.0	0.7	4.9	3.5	1.9	100.0	(802)
女子 短大・大学	97.4	0.1	0.8	0.7	0.9	100.0	(1934)
フリーターほか	80.0	2.4	7.5	6.0	4.1	100.0	(414)
合計	81.1	2.3	8.5	5.4	2.7	100.0	(3832)

表 21 髪型や服装を整えた

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	30.8	9.6	16.2	32.6	10.9	100.0	(866)
専門・各種	81.8	1.8	2.5	6.6	7.2	100.0	(512)
男子 短大・大学	93.2	0.7	1.2	1.7	3.3	100.0	(1812)
フリーターほか	73.7	1.8	7.8	9.6	7.2	100.0	(334)
合計	74.3	3.1	5.7	10.8	6.1	100.0	(3524)
就職	27.9	11.9	20.0	28.0	12.2	100.0	(656)
専門・各種	80.4	1.9	4.4	6.2	7.2	100.0	(795)
女子 短大・大学	91.2	0.8	1.1	2.0	4.8	100.0	(1923)
フリーターほか	75.1	2.1	4.9	6.9	11.1	100.0	(389)
合計	76.2	3.1	5.5	7.9	7.3	100.0	(3763)

表 22 就職試験受験

	活動なし	活動あり (開始時期)				合計	(N)
		4~5月	6~8月	9月	10~12月		
就職	21.7	2.1	10.7	49.3	16.2	100.0	(875)
専門・各種	85.7	0.2	1.5	7.2	5.4	100.0	(517)
男子 短大・大学	96.4	0.3	0.4	2.2	0.8	100.0	(1809)
フリーターほか	70.7	0.3	2.7	18.9	7.5	100.0	(334)
合計	73.9	0.7	3.3	16.2	5.9	100.0	(3535)
就職	25.4	1.1	8.3	49.9	15.3	100.0	(661)
専門・各種	89.1	0.1	1.4	5.9	3.5	100.0	(795)
女子 短大・大学	96.7	0.1	0.3	2.0	0.9	100.0	(1925)
フリーターほか	77.5	0.3	1.8	12.8	7.7	100.0	(391)
合計	80.6	0.3	2.1	12.4	4.7	100.0	(3772)

を整えた) (表 21)」、「就職試験受験 (「就職試験 (公務員試験を含む) を受けた) (表 22)」の 6 つである。

会社情報の入手と同様、希望進路を反映し、どの活動においても、活動ありの者は、「就職」 > 「フリーターなど」 > 「専門・各種学校」 > 「短大・大学」の順に減っていることが確認できる。会社情報の入手に関連する活動よりも、「就職」希望者と「フリーターなど」との活動状況の差が一般的に大きく、実際の就職試験に向けた具体的な活動になると、進路希望が具体化していない生徒では、アクションを起こせないでいる生徒が多いことが確認できる。活動をしなければ、進路が決定するのは難しく、このような層が、高卒無業者あるいは、ニートへと移行していく可能性が高いと考えられる。就職希望者では、「面接練習」、「髪型や服装を整えた」、「就職試験受験」の 3 活動は、7 割から 8 割の活動状況であり、「6~8 月」に面接練習をし、「9 月」に髪型や服装を整え、就職試験を受けるという活動パターンの者が多いのだろう。

### 3.3 活動スコアでみる活動状況

#### 3.3.1 活動のスコア化

前節では、希望進路別に各活動状況をみたが、進路に向けての活動は、各々が独立しているわけではない。すべての活動が相互になんらかの関連があり、影響を及ぼしあっている。以下では、進学関係の活動と就職関係の活動をスコア化した指標を用いて、活動状況を見ていく。

本節では、活動開始時期に注目した「進学 (就職) 活動開始スコア」と活動量に注目した「進学 (就職) 活動スコア」を用いる。「進学活動開始スコア」は、前出の進学関係の 10 活動それぞれについて、活動を開始した時期を特定し、「4~5 月」は 4 点、「6~8 月」は 3 点、「9 月」は 2 点、「10~12 月」は 1 点を与え、10 活動について合計したものである。

「就職活動開始スコア」の場合は、就職関係の 10 活動について、同じ手続きによりスコア化した。また、「進学活動スコア」は、前出の進学関係の 10 活動それぞれについて、活動数をカウントし (活動ごとに見れば、「一度も活動していない」の 0 点から「4 つの活動時期すべてで活動」の 4 点の範囲)、10 活動について合計したものである。「就職活動スコア」の場合は、就職関係の 10 活動について、同じ手続きによりスコア化している。各スコアの基本統計量は、表 23 に示したとおりである。進学の 2 つのスコアでは、女子の方が男子よりも平均点が高いが、就職の 2 つのスコアでは、男子の方が女子よりも平均点が高い。また、スコア間の相関を見ると、男女とも進学の 2 つスコア間、就職の 2 つスコア間で強い相関 (進学: 男子 0.89、女子 0.89、就職: 男子 0.92、女子 0.93) が見られ、一方、進学と就職のスコア間では、負の相関が見られる (表 24)。このことは、活動開始が早い者は、活動量も多い傾向があること、進学活動と就職活動では、一方が多くなれば、一方が少なくなるということを示している。

表 23 スコアの基本統計量

	(N)	平均	SD	最小値	最大値	
男子	進学活動開始スコア	(3375)	9.0	7.2	0	40
	進学活動スコア	(3375)	6.4	5.6	0	27
	就職活動開始スコア	(3454)	5.0	7.7	0	40
	就職活動スコア	(3454)	2.9	4.6	0	29
女子	進学活動開始スコア	(3568)	11.5	7.4	0	33
	進学活動スコア	(3568)	7.9	6.0	0	30
	就職活動開始スコア	(3710)	4.6	7.3	0	36
	就職活動スコア	(3710)	2.8	4.5	0	27

表 24 スコア間の相関係数

	進学_活動 スコア	就職_活動 開始スコア	就職_活動 スコア
男子 進学活動開始スコア	0.89 **	-0.46 **	-0.47 **
男子 進学活動スコア		-0.48 **	-0.46 **
男子 就職活動開始スコア			0.92 **
女子 進学活動開始スコア	0.89 **	-0.53 **	-0.52 **
女子 進学活動スコア		-0.49 **	-0.46 **
女子 就職活動開始スコア			0.93 **

注) \*\*:p<0.01

### 3.3.2 希望進路別活動スコア

希望進路によって、進路に向けた活動はどのように異なるのだろうか。希望進路別に各活動スコアの平均をみたものが、表 25 である。進学活動開始スコアと進学活動スコアは、「短大・大学」>「専門・各種」>「フリーターほか」>「就職」の順に低くなっている。一方、就職活動開始スコアと就職活動スコアは、「就職」が最も高く、以下、逆の順序で低くなっている。つまり、希望進路に沿った活動を行っていることが確認できる。「専門・各種」や「フリーターほか」は、「就職」や「短大・大学」にくらべ、両方の活動を行っている者が多く、進路に関して流動的な層ととらえることができるだろう。表は示さないが、高校 3 年次の 4 月時点で「就職」希望で、調査時点の予定進路が「就職（「未内定」も含む）」の者は、男子で 81.2%、女子で 77.8%、高校 3 年次の 4 月時点で「短大・大学」希望で、調査時点の予定進路が「短大・大学（「未決定」も含む）」の者は、男子で 89.0%、女子で 84.7%いるのに対し、高校 3 年次の 4 月時点で「専門・各種」希望で、調査時点の予定進路が「専門・各種（「未決定」も含む）」の者は、男子で 68.9%、女子で 68.3%にとどまることからそのように推測することができる。

また、男子の「フリーターほか」の就職の 2 つのスコア以外は、女子のほうが男子よりもスコアが高い。一般的に女子の方が、早く活動を開始している者が多く、活動量も多い

といえよう。

表 25 希望進路別活動スコアの平均値

	(N)	進学活動 開始スコア		進学活動 スコア		就職活動 開始スコア		就職活動 スコア		
		平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
就職	(873)	2.0	3.8	1.2	2.2	(796)	14.6	7.5	8.5	4.7
専門・各種	(472)	8.7	5.3	5.0	3.5	(503)	3.1	5.4	1.8	3.4
男子 短大・大学	(1673)	13.3	6.0	9.9	5.1	(1793)	1.1	3.5	0.7	1.9
フリーターほか	(316)	6.2	5.7	4.1	4.1	(323)	5.6	7.5	3.3	4.5
合計	(3334)	9.0	7.2	6.4	5.6	(3415)	5.0	7.7	2.9	4.6
就職	(649)	2.3	4.0	1.3	2.3	(610)	15.5	7.8	9.3	5.1
専門・各種	(737)	11.0	5.2	6.6	4.0	(786)	3.3	5.8	2.0	3.6
女子 短大・大学	(1800)	15.5	5.9	11.3	5.4	(1912)	1.5	3.3	0.9	2.1
フリーターほか	(356)	9.1	6.5	5.9	4.9	(378)	5.2	7.2	3.1	4.5
合計	(3542)	11.5	7.4	7.9	6.0	(3686)	4.6	7.3	2.8	4.5

### 3.3.3 希望進路別活動スコアの規定因

進路活動をしなければ、進路は決定しない。希望する進路に向け、それに相応の活動をしていくことが進路決定のためには重要である。そこで、アスピレーション、つまり、活動開始直前の高校3年4月時点での希望進路に応じた活動が、どのような要因によって規定されているのかを明らかにしたい。希望進路によって、進学関係の活動と就職関係の活動のウェイトが異なるので、ここでは、進学希望者と就職希望者、それぞれについて、活動状況に関連すると思われる要因<sup>(2)</sup>（「現在志向」、「将来志向」、「学内成績」、「重要なこと」、「親との会話」、「学科」、「学校への適応」）が、どのような関連をもっているのかに注目して分析を行う。

進学希望者の進学活動開始スコアと進学活動スコアについて、規定要因を分析した結果が、表 26 である。進学活動開始スコアでは、男子の場合、学内での成績が良いほど、進学を重要と思っているほど、親と進学について話すほど、普通科であること、学校適応スコアが高いほど、スコアが高い。すなわち、これらの要因は、プラスの影響を与えていることがわかる。また、女子の場合は、これらの要因に加え、現在志向が強いほど、スコアが低く、マイナスの影響を与えている。一方、進学活動スコアでは、男子の場合、将来志向が強いほど、学内での成績が良いほど、進学を重要と思っているほど、親と進学について話すほど、普通科であること、学校適応スコアが高いほど、スコアが高い。すなわち、これらの要因は、プラスの影響を与えていることがわかる。女子の場合は、現在志向が強いほど、スコアが低く、学内での成績が良いほど、進学を重要と思っているほど、親と進学について話すほど、普通科であること、学校適応スコアが高いほど、スコアが高い。す